

出 会 い

経営情報学部3年 大岡 千咲

今回の執筆にあたって私の大学生活を振り返ってみると、「出会い」に恵まれた学生生活であったと思う。大学に進学するまでもさまざまな出会いに恵まれたが、大学生活ではそれをより一層強く実感した。そう思う理由は、主に3つある。1つ目は、学びを通じた出会いである。2つ目は、留学先での出会いだ。そして3つ目は、大学生活での出会いである。

まず1つ目の学びを通じた出会いだ。今私は、開発系のゼミに所属し、先端的マーケティング心理コースでも学んでいる。ここでは、自分のやりたいこと、挑戦したいことに意欲的に活動できている。その背景には、先生方や仲間との出会いが大きく影響している。まず、先生方の存在である。学修の中で、一人では解決することが難しい問題にあたることも少なくない。そんな時、私たち学生の話に真摯に向き合い、相談に乗ってくださる先生方のおかげで、安心して活動することができる。次に、仲間の存在である。これは、私の活動に対する大きなモチベーションとなってくれる。作業が進まない時や、やる気が起きないとき、仲間が頑張っているのを見て私も頑張ろうという気持ちになるのだ。いつでも頼れる先生方や仲間との出会いがあったからこそ、私ののびのびとした学修生活は成り立っている。

2つ目に、留学先での出会いである。私は大学2年生の夏休み、一ヶ月間カナダのバンクーバーに留学していた。コロナの影響で行くはずだった沖縄への修学旅行がなくなった私は、人生で一度も飛行機に乗ったことがなかった。そのため、この留学が人生で初めての飛行機であ

り、人生で初めての海外だったのだ。一ヶ月だけとはいえ、初めてのことだらけでとても不安だったことはよく覚えている。そんな私の不安とは裏腹に、非常に有意義な留学生活をおくることができた。特に、ホストファミリーと留学先の友達との出会いは非常に思い出深い。初めての留学経験だった私に、ホストファミリーはとても優しく接して下さり、観光地に出向くときはその土地の歩き方まで教えてくださった。そのおかげで、私は安心して留学生活を満喫することができた。さらに、語学学校では本当にたくさんの国の友達と出会うことができた。そこで出会った友達とは、今でも連絡を取っている。

最後に、大学生活での出会いだ。大学生活では本当に多くの友人や先輩、後輩との出会いに恵まれている。そのおかげで、充実した生活を送ることができている。授業だけでなく、普段の学生生活において何気なく話せる相手がいることは、私に大きな安心感を与えてくれた。また、学内アルバイトでの出会いも大切である。学内アルバイトで私を知ってくださった方から、ありがたいことにさまざまなお話を持ち掛けてくださったり、私の提案について真摯に考えてくださったりする方ばかりである。この出会いは、私に本当にたくさんの経験をさせてくれた。この執筆も、その経験の一つである。

これらのことから、私は本当にたくさんの素敵な出会いに恵まれたと実感している。これから就職活動が本格化し、長かった学生生活も終わりへ向かう。今までの出会いを大切に、そしてそこでの経験を糧とし、これから始まる社会生活での出会いも大切にしていきたい。



多摩祭（2024年）でのゼミ活動の様子



留学先で出会った友達と

成長を感じた出来事

グローバルスタディーズ学部4年 川口 真依

私は、ロシアによるウクライナ侵攻のニュースを毎日のようにテレビで見て恐怖を覚えました。それまではあまり戦争について関心を持つことが出来ていませんでしたが、この出来事は他人事ではないと感じました。

そこで戦争や平和について学ぶことが出来る桐谷ゼミに所属することを決めました。ゼミは学生同士の議論がメインで毎週、「戦争をなくすにはどうしたら良いか」「どうしたら平和は訪れるのか」といった議題で話し合いを行いました。私は戦争についての知識が無いことに加え、積極的に意見を伝えることが苦手で、せっかく学びたい分野であるのに自分のためになっていないのではないかと悩んでいました。

そんな時に先生から藤沢市が行っている平和学習のチラシが配られました。そのプログラムでは原子爆弾投下の日付に合わせて広島や長崎を訪れ、戦争について考えるというものでした。私は広島も長崎も訪れた経験が無く、これでは戦争について語ることは出来ない、何より成長したいと考えて3年生の時に広島へ、そして4年生になった今年は長崎派遣プログラムに参加しました。このプログラムは小学生から高校生までがメインとなり、大学生はみんなをまとめるリーダーとしての参加でした。

緊張している子どもたちと話し合う時には自分から意見を伝えてみたり、子どもたちには「これはどう思う？」と声掛けをしてみたり工夫をしました。子どもと関わる機会が無かったのでどう接したらいいのか迷うこともありましたが、話をすると子どもの視点で見た戦争についての考えを聞くことが出来るなど新たな気づきもありました。

また、今回の長崎派遣では原爆落下中心地を訪れたり平和式典に参加したり、平和案内人の方に案内をしてもらい被爆遺構見学を行い、原子爆弾が残した悲惨な傷跡を見ることが出来ました。多くの人の命を奪い、生活や未来を奪い、生き延びることが出来た人には恐怖や苦しみ、悲しみ、痛みを残した原子爆弾。改めてその恐ろしさと二度とこのような悲惨な出来事を起こしてはならないと強く感じました。自分に出来ることを探し、実行していきたいです。

このプログラムに2回参加してきたことで戦争について学ぶことに加え、自分の意見を相手に伝えることや周りを見て行動が出来るようになりました。これからもこれらのことを忘れずに進んでいきたいと思っています。



長崎派遣プログラム報告会の様子



平和案内人から被爆遺構についての説明を受ける様子



修了証書を受け取る様子